

## 送 辞

在校生代表 電気情報工学科 4年  
内山 太智

厳しい冬の寒さの中にも、春の訪れを感じるこの  
できる季節となりました。本日、晴れて小山工業高等  
専門学校卒業式を迎えられた皆様、ご卒業おめでとう  
ございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げ  
ます。

今、皆様はこの学校での生活を振り返っていること  
と思います。先輩に連れられ、後輩を導き、同級生と  
切磋琢磨して数えきれないほどの貴重な経験を為され  
たことと思います。その先輩方の姿は今でも目に焼き  
付いており、私達にとってかけがえのないものとなっ  
ております。

私は高専に来て初めて先輩方と出会ったとき、その  
快活で自由な雰囲気を持つ姿にどこか大人びたものを  
感じ、憧れを抱きました。

工陵祭や球技大会などの学校行事では、先輩方のイ  
ベント事に楽しく、また真剣に取り組むその姿により、  
学校生活を楽しく感じる事ができました。

私が一時期所属していた学生会の先輩方は、入学式  
や文化発表会、工陵祭などの行事やイベント事を一心  
に支え努力していました。その活動を共にしていた私は、  
先輩方を誇らしく思いました。

文化発表会では、他高専の学生達と交流を行いました。  
その際、他高専とどのように関われば良いのか不安を  
覚えた私の背中を押し、また架け橋となってください  
ました。その姿には頼もしさを覚えました。

これから先輩方は高専における学生生活を終え、進  
学や就職などの形で社会に出られることとなります。  
その道は厳しく、険しいものとなるかもしれません。  
しかしそこでの苦難を、今までの高専生活で培われた  
技術や経験が助けてくれます。何より、個性の溢れる  
先輩方はどんな困難も乗り越えられることでしょう。  
明日より踏み出す世界にてご活躍なされることを心よ  
り期待しております。

先輩方に見せていただいた姿やかけていただいた言  
葉を心に焼き付けて、その後を受け継げるように、よ  
り一層の努力を致したいと思えます。

卒業生の皆様のご健康と更なる躍進を祈念して、在  
校生代表の送辞とさせていただきます。

## 答 辞

卒業生代表 電気情報工学科 5年  
清水 心

緑色の新芽が美しく光り、桜のつぼみも膨らみ始め、  
春の訪れを感じさせるこの頃、私たちは5年間に及ぶ  
学生生活を終え、今日、卒業します。

本日はこのようなすばらしい式典を催していただき、  
誠にありがとうございます。教職員の皆様、ご来賓の  
皆様、保護者の皆様、そして在校生の皆さんに卒業生  
を代表しまして心より御礼申し上げます。

小さいころから入りたいと思っていた高専に入学し  
てからはや5年。この5年間で私は様々なことを学び、  
経験しました。一年生の時から始まった専門科目に最  
初は戸惑いながらも一生懸命勉強し自分の力にしよう  
と励みました。学校祭ではクラスメイトと一緒に企画  
をしたお化け屋敷は長い行列ができるほどの評判でした。  
そんな5年間の中でも私は特に学生会活動に力を入れ  
ました。「この学校をよりよくしたい」その一心で事  
業を進めてきました。時には意見が合わず、夜遅くま  
で議論をしたり、失敗したりしてしまうこともありま  
したが、仲間と支えあって活動してきました。ここで  
の経験は成人式や就職活動でも生かすことができ自分  
の糧となりました。他にもたくさんの思い出があり、  
その記憶は走馬灯のように頭の中を駆け巡ります。

話は変わりますが、私たちが生活してきた5年間を  
日数で表すと入学式から今日まで1802日間となっ  
ています。しかし、当初は1809日間の予定でした。こ  
れは5年前に発生した東日本大震災の影響から入学式  
が遅れたためのものです。私の住んでいるここ小山市  
でも、一時はガスも電気も水道も使えず、食料の買い  
占めが起きるなどの混乱が起きました。そして、つい  
数か月前も関東・東北豪雨災害が発生し、思川の増水  
の様子は度々ニュースにも流れました。私の友人にも  
直接被害にあった方が何名かいます。こういったこと  
が起きるたびに私は今、当たり前な生活を送ることが  
できているのはとても幸せなことなのだと感じます。  
技術者はこうした当たり前な生活をつくっていくこと  
も役目の一つだと私は考えています。社会に出たあか  
つきには技術者として高専で学んだことを生かし、世  
の中の当たり前を作っていきたいと思えます。

在校生の皆さん、皆さんにはこの言葉を送りたいと  
思います。「一つの手立てさえ見つければ、『出来ます』  
と言える。あらゆる道筋をつぶさないと『出来ない』  
とは断言できない。」新幹線を作った男と言われる  
元国鉄技師長・島秀雄氏の言葉です。私はこの言葉か  
ら「当たり前をつくっていく」ことが「出来る」技術  
者をめざし、ここまで来ました。そして小山高専で学び、  
卒業することができてよかったと心から思うことがで  
きます。皆さんもぜひ、技術者として目指す目標をも  
って残りの学生生活を悔いのないものにし、卒業の時  
は高専で学べてよかったと思えるようになってもらえ  
たらと願っています。

最後に、教職員の皆様のご健勝とご活躍、そして、  
小山工業高等専門学校の更なる発展を祈念して、ここ  
に答辞とさせていただきます。

